

こんなことができます

ピアノを弾く

♪ いろいろな音で弾く

2 ページ

本機にはたくさんの音色が内蔵されています。いろいろな音色を選んでみましょう。

♪ 2つの音色を重ねて弾く（デュアル）

2 ページ

1つの鍵盤で2つの音色を重ねて鳴らすことができます。

♪ 右手と左手を違う音色で弾く（スプリット）

2 ページ

鍵盤を左右に分けて、それぞれ別の音色を選んで鳴らすことができます。

便利な機能

♪ 演奏を録音する

3 ページ

自分で弾いた演奏を録音し、再生して確認することができます。

♪ Bluetooth 機能

6 ページ

Bluetooth に対応したアプリ「Roland Piano App」を使ったり、スマートフォンのオーディオを再生したりできます。

目次

かんたん操作ガイド（フロント・パネル）	2
音色を選ぶ	2
音量を調節する	2
各機能の設定をする（ファンクション）	2
右手と左手を違う音色にする（スプリット）	2
メトロノームを鳴らす	3
演奏を録音する	3
内蔵曲を再生する	3

演奏する前に	4
スタンドに設置する	4
機器を接続する（Phones 端子）	4
譜面立てを取り付ける	4
機器を接続する（リア・パネル）	5
電源を入れる／切る	5
一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする（オート・オフ）	5

ピアノとモバイル機器を Bluetooth でつなぐ	6
こんなことができます	6
ピアノのスピーカーで音楽を鳴らす（Bluetooth Audio）	6
ピアノをアプリと一緒に使う（Bluetooth MIDI）	7

進んだ使いかた	9
音の明るさを調整する（プリリアンス）	9
音の響きを調整する（アンビエンス）	9
鍵盤を2つに分けて2人で演奏する（ツインピアノ）	9
メトロノームの便利な機能	9
音の高さをオクターブ単位で変える（オクターブ・シフト）	10
カウントを鳴らしてから曲を再生／録音する（カウント・イン）	10
ヘッドホンと内蔵スピーカーの両方から音を出す（スピーカー・オート・ミュート）	11
USB メモリーをフォーマットする	11
設定を保存する（メモリー・バックアップ）	11
工場出荷時の状態に戻す（ファクトリー・リセット）	11
各機能の設定をする（ファンクション）	12

故障かな?と思ったら	13
------------	----

内蔵曲一覧	13
-------	----

安全上のご注意	14
---------	----

使用上のご注意	14
---------	----

主な仕様	15
------	----

操作一覧（ボタンと鍵盤の組み合わせ）	16
--------------------	----

アプリをダウンロード

スマートフォン／タブレット用のアプリをダウンロードして、ピアノと一緒に使いましょう。

iOS/iPadOS
Android



電子楽譜を表示したり、ゲーム感覚で曲の練習をしたり、練習の記録をつけたりすることができます。



好みのピアノの音を作るアプリです。

かんたん操作ガイド（フロント・パネル）

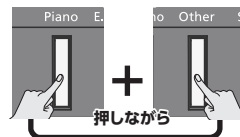
音色を選ぶ

Tone 選択ボタンを押しながら以下の鍵盤を 1 つ押すと、音色が変わります。

ピアノを選ぶ		E. ピアノを選ぶ	その他の音色を選ぶ
Piano		E. Piano	Other
押しながら		押しながら	押しながら
C2			A.Bass+Cymbal
			AcousticBass
			Steel-str.Gt
			Nylon-str.Gt
			Comp'd JBass
			Accordion
			ChurchOrgan2
			ChurchOrgan1
			Flip Pad
			Nason Flt 8'
C1			Trancy Synth
			Pipe Organ
			Super Saw
			Light Organ *
			Solina
			Lower Organ *
			Soft Pad
			Mellow Bars *
			JP8 Strings
			Full Stops *
			D50 StackPad
			Harpichord
			Gospel Spin *
			Choir Aahs 2
			Magical Piano
			Ballad Organ *
			Choir Aahs 1
			Ragtime Piano
			Combo Jz.Org *
			Super SynPad
			OrchestraBrs
			Rock Piano
			B.Organ Slow *
			Harpiness
			Bright Upright
			Celesta
			Vibraphone
			String Trio
			Mellow Upright
			Clav.
			Orchestra
			Bright Piano
			80's FM EP
			SymphonicStr2
			Mellow Piano
			Phase EP Mix
			SymphonicStr1
			Ballad Piano
			Wurly 200
			Rich Strings
			Concert Piano
			1976SuitCase
			Epic Strings

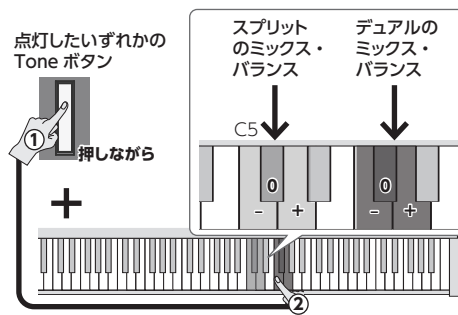
2つの音色を重ねて鳴らす（デュアル）

Tone ボタン 2 つを同時に押すと、2 つの音色を重ねて鳴らすことができます。



ミックス・バランス

2 つの音色のミックス・バランスを調節することができます（5 段階、0 = 初期値）。



※ (*) マークの付いているオルガン音色を選んでいるときに [E. Piano] ボタンを押すと、ロータリー効果のうねりの速さを変えられます。

電源を入れる／切る

[ON] ボタンを長押しします。

➔ 「電源を入れる／切る」(P.5)

音量を調節する

2 つの Volume ボタンで音量を調節します。

Volume (右) ボタン: 音量が大きくなります。

Volume (左) ボタン: 音量が小さくなります。

※ 音量に応じて Volume ボタンの上部にあるインジケータの点灯する数が変わります。すべて点灯すると音量が最大になります。すべて消灯すると音は鳴りません。

※ それぞれの Volume ボタンを押し続けると、音量の変化が早くなります。

各機能の設定をする（ファンクション）

ファンクションの設定は [Function] ボタンを押しながら、各設定に対応した鍵盤を押します。

ファンクションで以下の設定ができます。

➔ 詳しくは「進んだ使いかた」(P.9) をご覧ください。

ファンクション	設定値
オート・オフ	Off、10 分、30 分、240 分
スピーカー・スイッチ	Off、Stand、Desk
USB メモリーの曲	再生、選択
マスター・チューニング	415.3 ~ 466.2Hz (0.1Hz 単位)
キー・タッチ	5 段階、固定 (FIX)
ブリリアンス	3 段階
アンビエンス	11 段階
ツインピアノ	Pair、Individual
トランスポーズ	-6 ~ +5
MIDI 送信チャンネル	1 ~ 16
SMF 再生モード	Auto Select、Internal、External
ローカル・コントロール	On、Off
Input Volume	10 段階
Bluetooth	On、Off

※ [Function] ボタンを長押しすると、Bluetooth のペアリングを開始することができます。

右手と左手を違う音色にする（スプリット）

[Split] ボタンをオンにすると、鍵盤を左右に分けて、それぞれ違う音色で演奏することができます。

[Split] ボタンを押している間、左に割り当てた Tone ボタンが点灯します。

※ スプリット演奏時、Pedal 1 または Pedal 2 端子につないだペダルの効果は右側の音色のみにかかります。

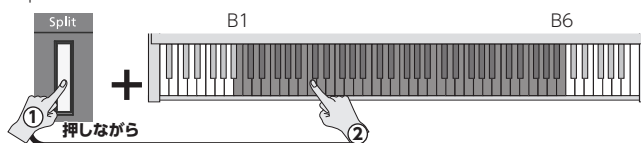
音色を変える（スプリット）

左の音色を変える [Split] ボタンを押したままにして、さらに Tone ボタンの 1 つを押しながら鍵盤を押します。

右の音色を変える 上記「音色を選ぶ」と同様の操作です。

鍵盤の分かれる位置（スプリット・ポイント）を変える

[Split] ボタンを押しながら、鍵盤を押します（初期値：F#3）。



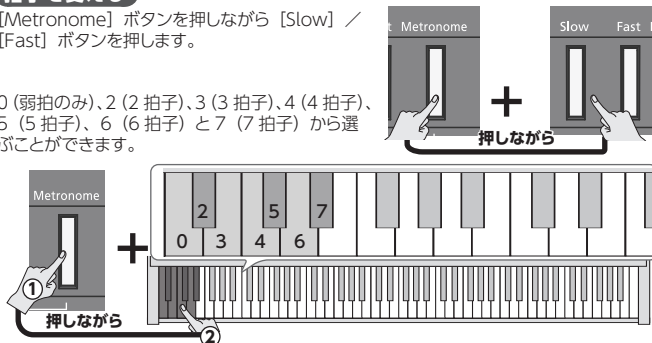
メトロノームを鳴らす

[Metronome] ボタンをオンにすると、メトロノームが鳴ります。
[Slow] / [Fast] ボタンを押して、テンポを調節します。

拍子を変える

[Metronome] ボタンを押しながら [Slow] / [Fast] ボタンを押します。

0 (弱拍のみ)、2 (2 拍子)、3 (3 拍子)、4 (4 拍子)、
5 (5 拍子)、6 (6 拍子) と 7 (7 拍子) から選
ぶことができます。

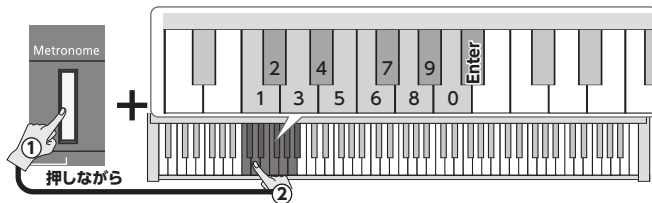


※ 強拍を鳴らさず、弱拍だけにしたいときは「0」を選びます。

テンポを数値で設定する

数値でテンポ (10 ~ 500) を入力することもできます (初期値: 108)。

例: 120 を入力するときは、[Metronome] ボタンを押しながら 1 → 2 → 0 → Enter
の順に鍵盤を押します。

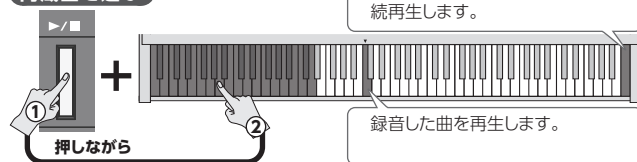


内蔵曲を再生する

曲を再生 / 停止するには [▶/■] ボタンを押します。

[▶/■] ボタンを押しながら以下の鍵盤を 1 つ押すと、内蔵曲を選ぶことができます。
曲名については「内蔵曲一覧」(P.13) をご覧ください。

内蔵曲を選ぶ

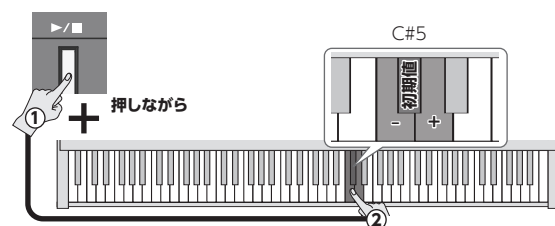


右端の鍵盤を押すと、全曲を連
続再生します。

録音した曲を再生します。

ソング・ボリューム

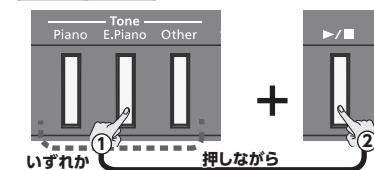
曲の音量 (SMF / オーディオ) を調節します。 (10 段階、10 = 初期値)。



※ デモ曲はソング・ボリュームを調節できません。

※ SMF 再生モード (P.12) を「Auto-Select」または「Internal」に
設定しているときは、ソング・ボリュームで音量が変わらないパートが
あります。「External」に設定すると、すべてのパートの音量が変化し
ます。

音色デモを聴く



各 Tone ボタンの音色を用いたデモ曲を再生することができます (全 3 曲)。
[▶/■] ボタンを押すと、停止します。

※ これらのデモ曲を個人で楽しむ以外に権利者の許諾なく使用すること
は、法律で禁じられています。

※ 内蔵曲の演奏データは USB Computer 端子からは出力されません。

演奏を録音する

以下の手順で曲を録音します。

※ あらかじめ録音する音色を選んでおきます。

1. [●] ボタンを押す。

※ 録音を中止するには、もう一度 [●] ボタンを押す。

2. 鍵盤を弾いて、録音スタート。

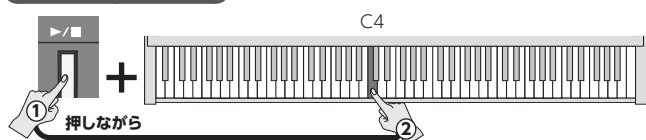
3. [▶/■] ボタンを押して、録音ストップ。

メトロノームに合わせて録音する場合

※ あらかじめメトロノームを鳴らし、拍子とテンポを設定しておきます。

手順 2 で [▶/■] ボタンを押すと、1 小節のカウント音が鳴って録音がスタートします。

録音した曲を再生する



録音をやり直したいときは?

手順 1 から録音をやり直します。

録音した曲を USB メモリーに保存する

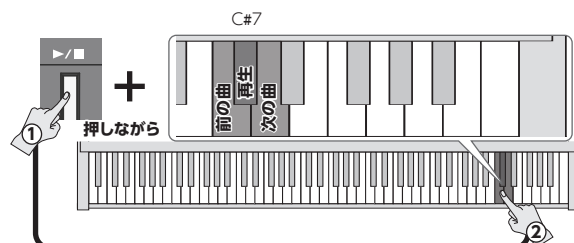
※ あらかじめ USB メモリーを接続しておきます。

[Function] ボタンを押しながら [▶/■] ボタンを押します。
すべてのボタンが点灯したら、保存が完了します (100 曲まで)。

USB メモリーの曲を再生する

[▶/■] ボタンを押しながら [C#7] の鍵盤を押します。

[C#7] の両隣の鍵盤で USB メモリーの曲を選ぶことができます。



※ USB メモリーにパソコンのオーディオ・ファイルや MIDI ファイルをコピーして、
FP-30X で再生することもできます。再生できるフォーマットについては、「USB メモリー
で再生できるフォーマット」(P.15) をご覧ください。

演奏する前に

スタンドに設置する

FP-30X をスタンドに設置するときは、当社製のスタンド KSC-70 (KSC-70 の取扱説明書をご覧ください)、KS-12、KS-20X、KS-10Z をご使用ください。

※ スタンドに設置するときは、指などをはさまないように、十分にご注意ください。

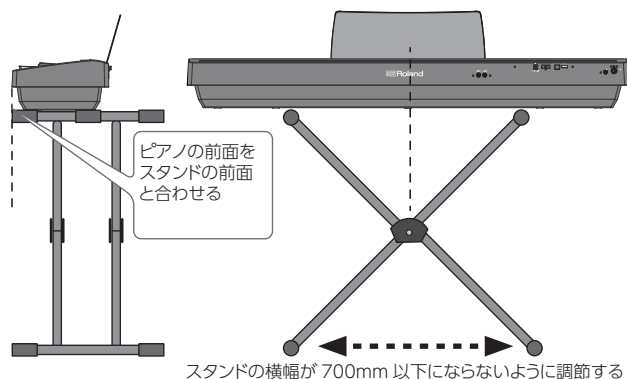
KS-12

スタンドの高さは一番低い位置に調節します。

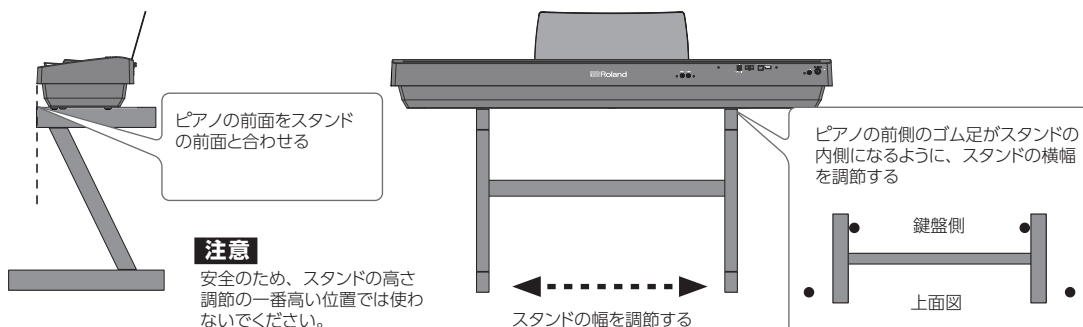


KS-20X

ピアノとスタンドの中心を合わせる



KS-10Z



機器を接続する (Phones 端子)



Phones 1/2 端子

ステレオのヘッドホンを接続します。本機にはヘッドホン端子が 2 つあるので、2 人で同時にヘッドホンを使うことができます。

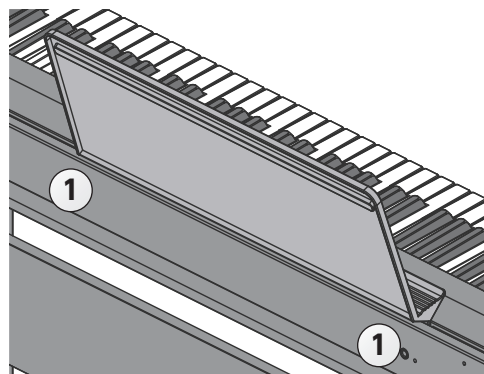
※ ヘッドホン端子は左側がステレオ・ミニ・プラグ用、右側がステレオ標準プラグ用です。お手持ちのヘッドホンのプラグに合わせて接続してください。



ヘッドホン

譜面立てを取り付ける

1. ピアノ本体上面のスリットに、譜面立てを差し込みます。



機器を接続する (リア・パネル)

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

DC IN 端子

付属の AC アダプターを接続します。

AC アダプターは、インジケーター (図参照) のある面が上になるように設置してください。
AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。

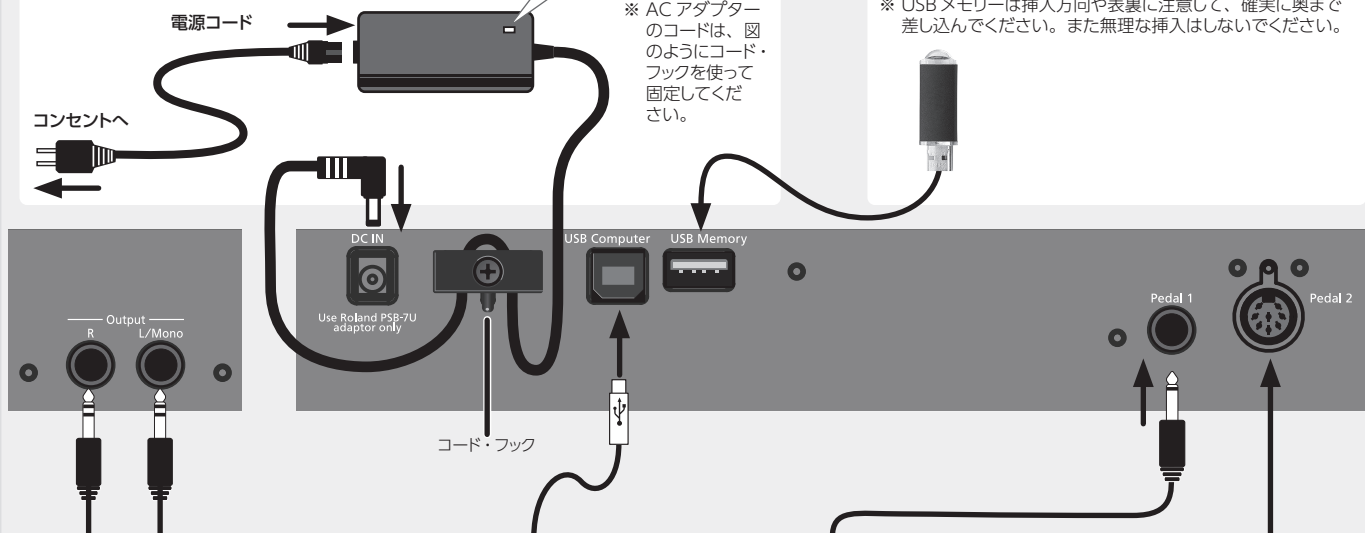
※ AC アダプターのコードは、図のようにコード・フックを使って固定してください。

USB Memory 端子

USB メモリー (市販) を接続します。
USB メモリーを接続すると、曲を再生したり保存したりできます。

※ USB メモリーのアクセス・ランプが点滅している間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーや電源コードを抜いたりしないでください。

※ USB メモリーは挿入方向や表裏に注意して、確実に奥まで差し込んでください。また無理な挿入はしないでください。



アンプ内蔵スピーカー

アンプ内蔵スピーカーなどをつなぎ、そこからピアノの音を鳴らすことができます。

※ 外部機器につないで音がはずむときは、FP-30X の音量を少し下げてください。



USB Computer 端子

USB ケーブル (市販) を使ってパソコンと接続します。パソコンのシーケンサー・ソフトウェア (市販) と演奏情報やオーディオ信号をやりとりして、音楽制作や、録音、編集などをすることができます。



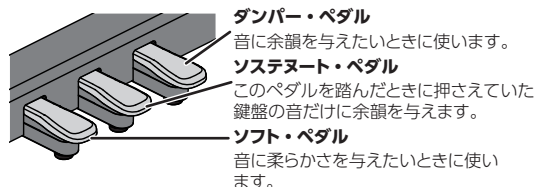
Pedal 1 端子

付属のダンパー・ペダルをつなぎます。



Pedal 2 端子

専用スタンド (別売: KSC-70) に専用ペダル (別売: KPD-70) を接続するときに、KPD-70 のケーブルを接続します。



※ ペダルを操作するときは、可動部と本体の間に指をはさまないようにしてください。お子様のいる場所で使用する場合はご注意ください。

電源を入れる／切る

正しく接続したら、必ず次の手順で電源を入れてください。手順を間違えると、誤動作をしたり故障したりすることがあります。

電源を入れる

1. [⏻] (電源) ボタンを長押しして、電源を入れます。

- ※ 本機は回路保護のため、電源をオンにしてからしばらくは動作しません。
- ※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

電源を切る

1. [⏻] (電源) ボタンを 1 秒以上押し、電源を切ります。

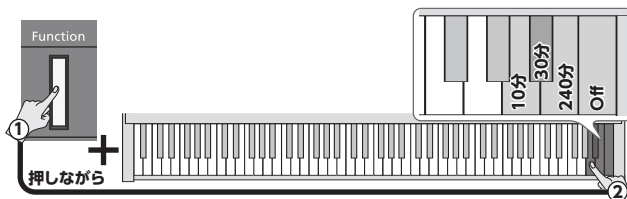
- ※ [⏻] (電源) ボタンが点滅している間は、電源コードを抜かないでください。

一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (オート・オフ)

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (オート・オフ機能)。

自動的に電源が切れないようにするには、オート・オフ機能を解除してください。(初期値: 240 分)

※ オート・オフの設定は本機に自動保存されます。



- 電源が切れると保存していないデータは失われます。残しておきたいデータはあらかじめ保存しておいてください。
- 電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください。

ピアノとモバイル機器を Bluetooth でつなぐ



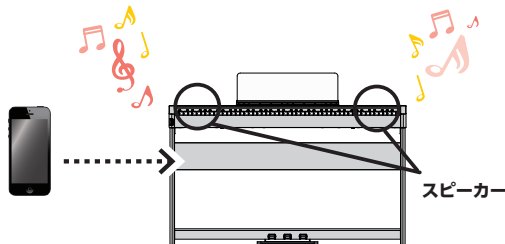
こんなことができます

Bluetooth 機能を使うと、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器（以下、「モバイル機器」と呼びます）とピアノが無線でつながり、次のことができます。

→ピアノのスピーカーで音楽を鳴らす（Bluetooth Audio）

6 ページ

モバイル機器で再生した曲を、無線でピアノのスピーカーから鳴らすことができます。再生している曲に合わせて、ピアノ演奏することもできます。



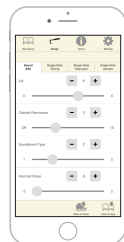
→ピアノをアプリと一緒に使う（Bluetooth MIDI）

7 ページ

アプリ（ローランド製「Roland Piano App」や「Piano Designer」など）をモバイル機器にインストールして、ピアノと連携して使うことができます。



Roland Piano App



Piano Designer

ピアノのスピーカーで音楽を鳴らす（Bluetooth Audio）

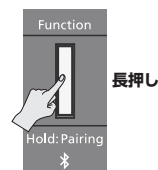
スマートフォンなどのモバイル機器で再生した曲を、無線でピアノのスピーカーから鳴らすための設定をします。

※ ピアノとのペアリングが済んだモバイル機器は、再度ペアリングする必要はありません。「初期設定済みのモバイル機器を接続する」（P.7）の手順をご覧ください。

初期設定をする（ペアリング）

例として、iPad を使った設定方法を紹介します。Android 機器をお使いの場合、設定方法についてはお使いのモバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

1. 接続したいモバイル機器をピアノ周辺に置きます。
2. [Function] ボタンを、5 秒以上押し続けます。



ペアリングを開始します。

3. モバイル機器の Bluetooth 機能をオンにします。



4. モバイル機器の Bluetooth デバイス画面に表示されている「FP-30X Audio」をタップします。



ピアノとモバイル機器がペアリングされます。ペアリングが成功すると、以下のように表示されます。

モバイル機器	「自分のデバイス」欄に「FP-30X Audio」が追加される
ピアノ	「Function」ボタンが点灯する（青色）

以上で初期設定は完了です。

ペアリング

Bluetooth 機能を使うには、はじめにピアノとモバイル機器を 1 対 1 でつなぐ「ペアリング」が必要です。

「ペアリング」は、使いたいモバイル機器にピアノを登録する（お互いに認証する）ための手続きです。

各機能の手順に従ってペアリングをしてください。



ペアリングの流れ

「ピアノのスピーカーで音楽を鳴らす」場合と「ピアノをアプリと一緒に使う」場合は、それぞれにペアリング操作が必要です。ペアリングの流れが異なりますので、ご注意ください。

ピアノのスピーカーで音楽を鳴らす場合



ピアノの設定



モバイル機器の設定

ピアノをアプリと一緒に使う場合



モバイル機器の設定



App アプリの設定

※ うまく接続できない場合は、「ペアリングがうまくいかないときは?」（P.8）をご覧ください。

初期設定済みのモバイル機器を接続する

1. モバイル機器の **Bluetooth** 機能をオンにします。
ピアノとモバイル機器が無線でつながります。

メモ

上記の操作で接続ができなかった場合は、モバイル機器の **Bluetooth** デバイス画面に表示されている「FP-30X Audio」をタップしてください。

オーディオを再生する

モバイル機器で音楽データを再生すると、ピアノのスピーカーから音が鳴ります。

Bluetooth オーディオのボリュームを調節する

通常は、お使いのモバイル機器側でボリュームを調節します。

それでも思ったようなボリュームにならないときは、以下の操作でボリュームを調節します。

1. [Function] ボタンを押しながら、鍵盤の C1、C#1、または D1 を押してボリュームを調節します。

操作する鍵盤	説明
C1	ボリュームの値を -1 します。
C#1	ボリュームの値を初期値 (7) にします。
D1	ボリュームの値を +1 します。
設定範囲	1 ~ 10 (初期値: 7)

ピアノをアプリと一緒に使う (Bluetooth MIDI)

ピアノと連携して、モバイル機器にインストールしたアプリを使えるようにする設定をします。

このピアノと一緒に使えるアプリ

アプリ名	対応 OS	説明
 Roland Piano App	iOS iPad OS Android	電子楽譜を表示したり、ゲーム感覚で曲の練習をしたり、練習の記録をつけたりすることができます。
 Piano Designer	iOS Android	好みのピアノの音を作るアプリです。さまざまな音の要素をアプリからタッチ操作で調節できます。

- ※ アプリは App Store、Google Play よりダウンロードできます (無料)。
- ※ 上記以外にも、**Bluetooth MIDI** 対応の音楽アプリ (Garage Band など) を使うことができます。
- ※ 本書は、発行時点での当社製アプリの情報を掲載しています。最新情報については、ローランド・ホームページをご覧ください。

設定をする (ペアリング)

モバイル機器にインストールしたアプリとピアノと一緒に使う設定をします。
ここでは、例として iPad を使ってアプリ「Roland Piano App」を使うときの手順を紹介します。

- ※ 「ピアノをアプリと一緒に使う」場合は、ピアノ側の設定は不要です。アプリからの操作でピアノとペアリングをします。

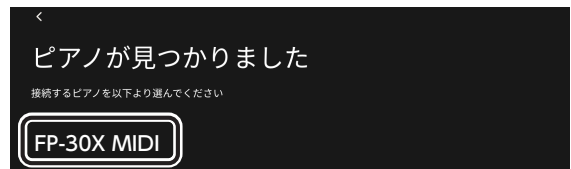
1. モバイル機器の設定で、**Bluetooth** 機能をオンにします。



注意

「デバイス」欄に、お使いの製品名 (「FP-30X MIDI」など) が表示されてもタップしないでください。

2. モバイル機器にインストールしたアプリを起動します。
3. 「ピアノと接続する」をタップします。
4. お使いの製品名「FP-30X MIDI」をタップします。



「Bluetooth ペアリングの要求」が表示された場合は、「ペアリング」をタップします。



ピアノとモバイル機器がペアリングされます。ペアリングが成功すると、以下のように表示されます。

モバイル機器	アプリ画面上部の「接続状態」欄に「FP-30X MIDIと接続しています」と表示される
ピアノ	[Function] ボタンが点灯する (青色)

以上で設定は完了です。

メモ

初期設定済みのモバイル機器と接続する場合は、アプリを起動すると自動的に接続されます。接続には数秒かかります。

- ※ 接続されない場合は、アプリ画面上部の「接続状態」をタップし、「ピアノと接続する」をタップします。



ペアリングがうまくいかないときは？

「ピアノをアプリと一緒に使う」(P.7) のペアリングがうまくいかないときは、以下の手順 1～4 をお試しください。

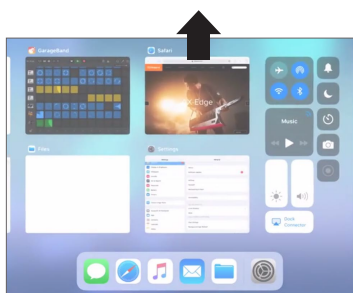
① ピアノの Bluetooth 機能が「オン」になっているか確認する

1. [Function] ボタンを押しながら、鍵盤の A0 を押します。
ピアノの Bluetooth 機能がオンになります。

② モバイル機器のすべてのアプリを終了する

アプリの終了方法

1. ホームボタンをダブルクリックして、アプリ画面を上へスワイプします。



※ モバイル機器によっては、アプリの終了方法が異なる場合があります。お使いのモバイル機器の操作方法に従って終了させてください。

③ ペアリングされている場合は一度解除し、Bluetooth 機能をオフにする

ペアリングの解除方法

1. モバイル機器画面の「接続済み」横にある「i」をタップして、「このデバイスの登録を解除」をタップします。



2. Bluetooth スイッチをオフにします。



④ P.7 のペアリング手順 1 からやり直す

メモ

内容を確認しても解決しないときは、ローランドのサポート・ページをご覧ください。

<https://www.roland.com/jp/support/>

複数台のピアノとペアリングをするとき

たとえば、音楽教室にある複数台のピアノとモバイル機器のペアリングをするときは、各ピアノに **Bluetooth ID** (識別番号) を設定することで、目的のピアノとペアリングすることができます。

※ この設定をすると、モバイル機器にデバイス名が表示されるときに、末尾に識別番号付きで表示されます (「FP-30X Audio1」など)。

1. ピアノの電源を切ります。
2. [Volume] (左) ボタンを押しながら [v] ボタンを長押しします。

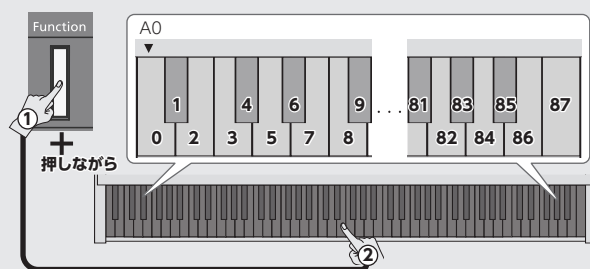
すべての Volume インジケータが点滅したら指を離します。Volume インジケータの点滅の回数で、現在設定されている **Bluetooth ID** を確認することができます。

設定値	Volume インジケータ
0	点灯 ●●●●●
1	点灯 → 1 回点滅 → 最初に戻る ●●●●● → ○●●●●
9	点灯 → 9 回点滅 → 最初に戻る ●●●●● → ○●●●●
10	点灯 → 1 回点滅 → 最初に戻る ●●●●● → ●●●●○
11	点灯 → 1 回点滅 → 1 回点滅 → 最初に戻る ●●●●● → ●●●●○ → ○●●●○
87	点灯 → 8 回点滅 → 7 回点滅 → 最初に戻る ●●●●● → ●●●●○ → ○●●●○

Volume インジケータの状態

● 消灯 ○ 点灯 ● 点滅

3. [Function] ボタンを押しながら、鍵盤を押して Bluetooth ID を設定します。



設定値	説明
0～87	[0] に設定: 「FP-30X Audio」 「FP-30X MIDI」 (初期値) [1] に設定: 「FP-30X Audio1」 「FP-30X MIDI1」

設定した ID に応じて Volume インジケータの点滅が変化します。[Slow] / [Fast] ボタンを押して、**Bluetooth ID** の値を変えることもできます。

4. [Volume] (左) ボタンまたは [Volume] (右) ボタンを押して設定を完了します。

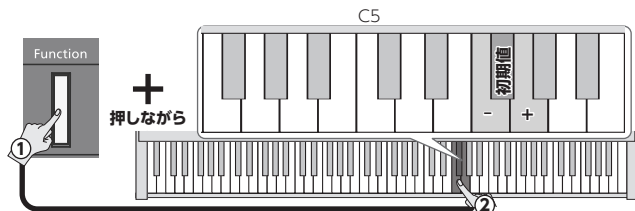
※ ピアノが複数台ある環境でペアリングをするときは、ペアリングするピアノとモバイル機器のみ電源を入れることをお勧めします (他の機器の電源は切ってください)。

進んだ使いかた

音の明るさを調整する（ブリリアンス）

音の明るさを調節します（3段階）。

1. [Function] ボタンを押しながら、鍵盤の F5、F#5、または G5 を押して、ブリリアンスのかかり具合を設定します。

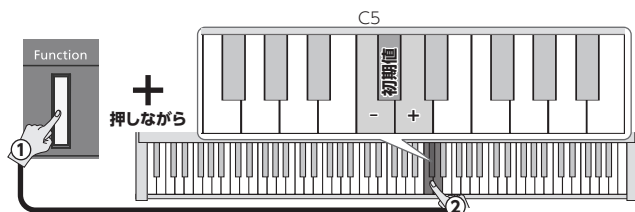


操作する鍵盤	説明
F5	ブリリアンスの値を -1 します。
F#5	ブリリアンスの値を初期値 (0) にします。
G5	ブリリアンスの値を +1 します。
設定範囲	-1 ~ +1 (初期値: 0)

音の響きを調整する（アンビエンス）

コンサート・ホールで演奏しているような響きの深さを調節します。

1. [Function] ボタンを押しながら、鍵盤の C5、C#5、または D5 を押して、アンビエンスのかかり具合を設定します。



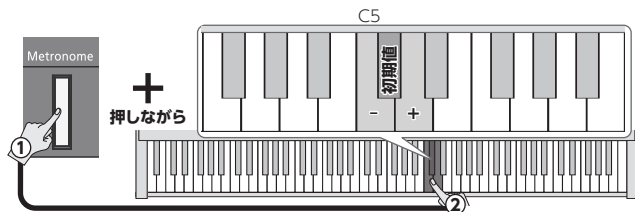
操作する鍵盤	説明
C5	アンビエンスの値を -1 します。
C#5	アンビエンスの値を初期値 (1) にします。
D5	アンビエンスの値を +1 します。
設定範囲	0 ~ 10 (初期値: 1)

メトロノームの便利な機能

メトロノームの音量を調節する

メトロノームの音量を調節できます。

1. [Metronome] ボタンを押しながら、鍵盤の C5、C#5、または D5 を押して、メトロノームの音量を設定します。

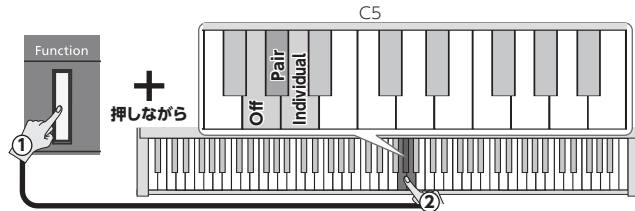


操作する鍵盤	説明
C5	メトロノームの音量を -1 します。
C#5	メトロノームの音量を初期値 (5) にします。
D5	メトロノームの音量を +1 します。
設定範囲	1 ~ 10 (初期値: 5)

鍵盤を 2 つに分けて 2 人で演奏する（ツインピアノ）

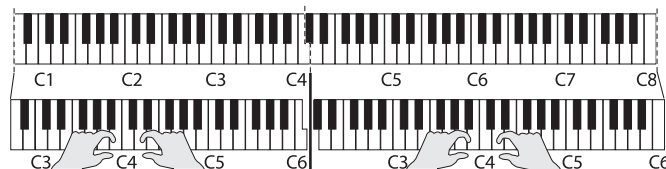
鍵盤を左右の領域に分けて、2 人で同じ音域で演奏することができます。まるで 2 台のピアノを演奏するように使えます。

1. [Function] ボタンを押しながら、鍵盤の G4、G#4、または A4 を押して、ツインピアノの鳴りかたを選びます。



鍵盤が左右 2 つの領域に分かれて、それぞれの領域で通常の「中央のド」を中心とした演奏ができます。

設定値	説明
Off	通常のアコースティック・ピアノと同じ鍵盤設定です。
Pair	右側の鍵盤になるほど右、左側の鍵盤になるほど左側から音が聴こえます。
Individual	右側領域の鍵盤の音は右から、左側領域の鍵盤の音は左から鳴ります。



※ 左右は同じ音色（ピアノ）になります。Tone ボタンを押すと、ツインピアノは解除されます。

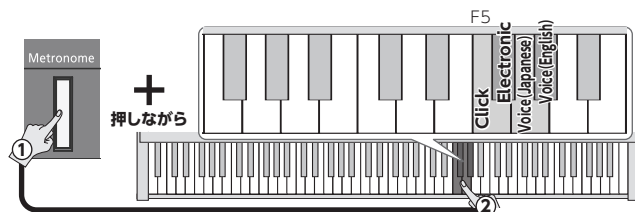
※ ダンパー・ペダルは右側領域のみに効きます。

※ KPD-70 使用時は、ソフト・ペダルは左側のダンパー・ペダルとして、ソステヌート・ペダルは右側領域にのみ効きます。

メトロノームの音色を変える

メトロノームの音色を変更できます。

1. [Metronome] ボタンを押しながら、鍵盤の F5、F#5、G5、または G#5 を押して、メトロノームの音色を設定します。



設定値	Click, Electronic, Voice (Japanese), Voice (English) (初期値: Click)
-----	---

メモ

拍子で「0」を選んでいるときに、メトロノーム音色で Voice を選べると 4 / 4 で鳴ります。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

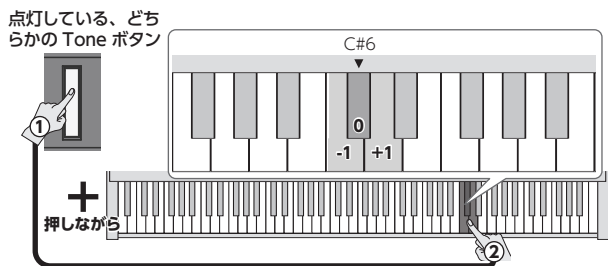
简体中文

音の高さをオクターブ単位で変える（オクターブ・シフト）

デュアル演奏時（P.2）やスプリット演奏時（P.2）にそれぞれの音色の、音の高さをオクターブ単位で変えて演奏することができます。これを「オクターブ・シフト」といいます。

デュアル演奏でのオクターブ・シフト

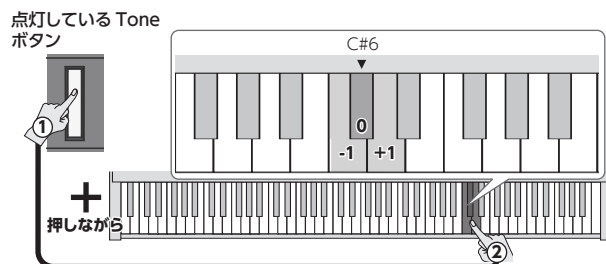
1. デュアル演奏状態にして、音色を選びます。
選ばれた音色の Tone ボタンが 2 つ点灯しています。
2. 点灯している 2 つの Tone ボタンのうち、オクターブ・シフトしたい側の Tone ボタンを押しながら、鍵盤の C6、C#6、または D6 を押してオクターブ・シフトを設定します。



操作する鍵盤	説明
C6	オクターブ・シフトの値を -1 します。
C#6	オクターブ・シフトの値を初期値（0）にします。
D6	オクターブ・シフトの値を +1 します。
設定範囲	-3 ～ +3（初期値：0）

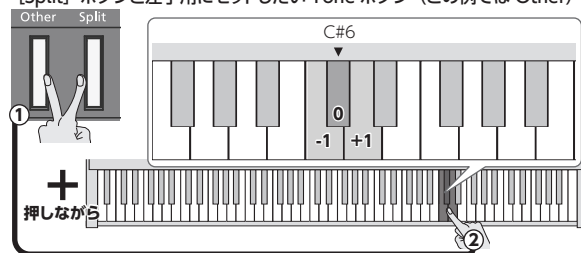
スプリット演奏でのオクターブ・シフト

1. スプリット演奏状態にして、音色を選びます。
[Split] ボタンと、右手用に選んだ音色の Tone ボタンが点灯しています。
2. 点灯している Tone ボタンを押しながら、鍵盤の C6、C#6、または D6 を押して、右手用音色のオクターブ・シフトを設定します。



3. [Split] ボタンと、左手用にセットしたい音色の Tone ボタンを押しながら、鍵盤の C6、C#6、または D6 を押して、左手用音色のオクターブ・シフトを設定します。

[Split] ボタンと左手用にセットしたい Tone ボタン（この例では Other）



操作する鍵盤	説明
C6	オクターブ・シフトの値を -1 します。
C#6	オクターブ・シフトの値を初期値（0）にします。
D6	オクターブ・シフトの値を +1 します。
設定範囲	-3 ～ +3（初期値：0）

カウントを鳴らしてから曲を再生／録音する（カウント・イン）

カウントを鳴らしてから曲を再生したり、録音したりすることを「カウント・イン」といいます。

カウント・インを鳴らしてから曲を再生する

曲に合わせて演奏するときのカウントを鳴らすことで、曲と自分の演奏のタイミングを合わせやすくなります。

1. [Metronome] ボタンを押しながら [▶/■] ボタンを押します。
カウント・インが鳴ったあとに曲が再生されます。

カウント・インを鳴らしてから曲を録音する

※ あらかじめメトロノームを鳴らし、拍子とテンポを設定しておきます（P.3）。

1. [●] ボタンを押します。
2. [▶/■] ボタンを押します。
カウント・イン（初期値は 1 小節）が鳴ったあとに、録音がスタートします。

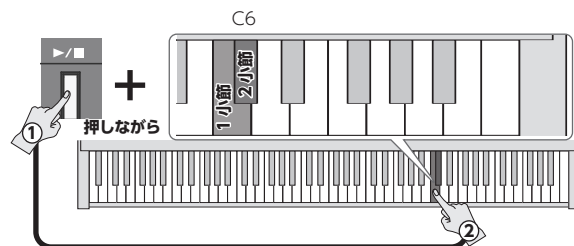
メモ

[▶/■] ボタンの代わりに鍵盤を弾くと、カウント・インを鳴らさずに、すぐに録音が始まります。

カウント・インの小節数を変える

工場出荷時はカウント・インの小節数は 1 小節に設定されていますが、お好みで小節数を変更できます。

1. [▶/■] ボタンを押しながら C6 または C#6 の鍵盤を押します。



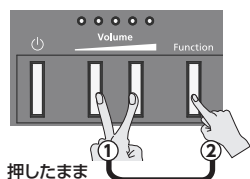
操作する鍵盤	説明
C6	カウント・インの小節数を 1 小節にします。（初期値）
C#6	カウント・インの小節数を 2 小節にします。

ヘッドホンと内蔵スピーカーの両方から音を出す (スピーカー・オート・ミュート)

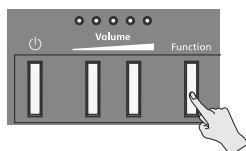
お買い上げ時の状態では、Phones 端子にヘッドホンを接続すると、内蔵スピーカーから音を出さないように設定されています。しかし、設定を変えることで、ヘッドホンと内蔵スピーカーの両方から音を出すことができます。

- ※「Off」にすると、ヘッドホンから出力される音の音質は変わります。
- ※「Off」にすると、スピーカー・スイッチが「Off」の状態でも内蔵スピーカーから音が鳴ります。

1. [Volume] (左) ボタンと [Volume] (右) ボタンを押しながら、[Function] ボタンを押します。

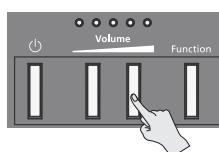


2. [Function] ボタンを押して、設定を切り替えます。



Phones 端子にヘッドホンをつないでいるとき	Volume インジケータの表示
On ヘッドホンからのみ音が出る (初期値)	 Volume
Off ヘッドホン、内蔵スピーカーの両方から音が出る	 Volume

3. 操作を終了するときには、[Volume] (左) ボタンまたは [Volume] (右) ボタンを押します。



Volume インジケータの状態

- 消灯
- 点灯
- ◐ 点滅

USB メモリーをフォーマットする

新しい USB メモリーを最初に FP-30X で使うときは、あらかじめ USB メモリーをフォーマットする必要があります。

注意

- フォーマットすると、USB メモリーに保存されている内容はすべて消えてしまいます。



1. フォーマットする USB メモリーを USB Memory 端子に接続します。
2. [▶/■] ボタンを押しながら電源を入れ、そのまま [▶/■] ボタンを 3 秒以上押し続けます。
[▶/■] ボタンと [●] ボタンが点滅します。
中止する場合は [▶/■] ボタンを押します。
3. フォーマットを実行する場合は [●] ボタンを押します。
ボタンに付いた LED がすべて点灯すると完了です。
4. 電源を入れ直します。

設定を保存する (メモリー・バックアップ)

このピアノは、電源を入れ直しても「自動で保存される設定」は記憶しています。また、「メモリー・バックアップ」の設定をすると、「メモリー・バックアップで保存される設定」も記憶しておくことができます。これら以外の設定は、電源を入れ直すと初期値に戻ります。

1. [Function] ボタンを押しながら、[●] ボタンを押し続けます。
[▶/■] ボタンと [●] ボタンが点滅します。
中止する場合は [▶/■] ボタンを押します。
2. 設定を保存する場合は [●] ボタンを押します。
ボタンに付いた LED がすべて点灯すると完了です。

メモリー・バックアップで保存される設定

メモリー・バックアップできる設定	ページ
キー・タッチ	P.12
プリリンス	P.9
アンビエンス	P.9
マスター・チューニング	P.12
スピーカー・スイッチ ([Stand] と [Desk] のみ)	P.12
スピーカー・オート・ミュート	P.11
メトロノームの音量	P.9
メトロノームの音色	P.9
カウント・インの小節数	P.10

自動で保存される設定

自動で保存される設定	ページ
Bluetooth On/Off	P.12
インプット・ボリューム	P.12
オート・オフ	P.5

工場出荷時の状態に戻す (ファクトリー・リセット)

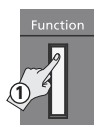
本機の設定を、工場出荷時の状態に戻すことができます。この機能を「ファクトリー・リセット」といいます。

注意

「ファクトリー・リセット」をすると、すべての設定は初期化され、本体メモリーに録音した曲が消去されます。

1. [Function] ボタンを押しながら電源を入れ、そのまま [Function] ボタンを 3 秒以上押し続けます。
[▶/■] ボタンと [●] ボタンが点滅します。
中止する場合は [▶/■] ボタンを押します。
2. ファクトリー・リセットを実行する場合は [●] ボタンを押します。
ボタンに付いた LED がすべて点灯すると完了です。
3. 電源を入れ直します。

各機能の設定をする（ファンクション）



ファンクションの設定は、
[Function] ボタンを押しながら
図の鍵盤を押します。

＋ 押しながら ②

C8	Off	オート・オフ (P.5)
	240分	
	30分	
	10分	
	Desk	スピーカー・スイッチ
	Stand	
	Off	
	＋	
	再生	USB メモリーの曲
	－	
	＋	
	440.0Hz	マスター・チューニング
	－	
	＋	
	Medium	キー・タッチ
	－	
	＋	
	初期値	ブリリアンス (P.9)
	－	
	＋	
	初期値	アンビエンス (P.9)
	－	
	Individual	ツインピアノ (P.9)
	Pair	
	Off	
	+5	
	+3	
	+4	
	+2	
	+1	トランスポーズ
	0	
	-1	
	-2	
	-3	
	-4	
	-5	
	-6	
	16	
	15	
	14	
	13	
	12	
	11	
	10	
	9	
	8	
	7	
	6	
	5	
	4	
	3	
	2	
	1	
	External	
	Internal	
	Auto-Select	
	Off	
	On	
	＋	
	初期値	
	－	
	Off	
	On	

内蔵スピーカーの設定をする（スピーカー・スイッチ）

内蔵スピーカーの鳴りかたを設定します。

設定	説明
Off	内蔵スピーカーから音は出さずに、Output 端子からのみ音を出します。 ライブでお使いいただくときに便利です。 ※「Off」の状態はメモリー・バックアップで保存されません。
Stand (初期値)	内蔵スピーカーと Output 端子の両方から音を出します。 スタンドに置いて弾くときに、最適な音質になるような設定です。
Desk	内蔵スピーカーと Output 端子の両方から音を出します。 テーブルに置いて弾くときに、最適な音質になるような設定です。

設定にかかわらず Phones 端子にヘッドホンをつなぐと、内蔵スピーカーからは音が出なくなります。ヘッドホンをつないでも内蔵スピーカーから音を出すには、こちらをご覧ください (P.11)。

USB メモリーの曲を再生する

USB メモリーの曲を再生したり、曲を変えたりします。

他の楽器と音の高さを合わせる（マスター・チューニング）

他の楽器とアンサンブルするときなど、本機の基準ピッチを他の楽器に合わせることができます。
基準ピッチとは、一般的に、中央 A (ラ) の鍵盤を弾いたときの音の高さのことをいいます。他の楽器とアンサンブル演奏をするときには、きれいなアンサンブルにするためにお互いの基準ピッチを合わせます。他の楽器と基準ピッチを合わせることを「チューニング」といいます。

415.3Hz ~ 440.0Hz (初期値) ~ 466.2Hz の間で調節することでできます (0.1Hz 単位で増減)。

鍵盤のタッチ感を変える（キー・タッチ）

鍵盤を弾いたときのタッチ感を設定します。

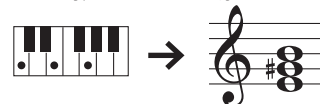
設定	説明
+2: Super Heavy	「Heavy」よりさらに重い設定です。
+1: Heavy	「Medium」より強いタッチで弾かないとフォルティシモ (ff) が出せなくなるので、鍵盤タッチが重くなったように感じられます。
0: Medium	「Medium」のタッチ (アコースティック・ピアノに一番近いタッチ) です。
-1: Light	「Medium」より弱いタッチでフォルティシモ (ff) が出せるので、鍵盤が軽くなったように感じられます。
-2: Super Light	「Light」よりさらに軽い設定です。
-3: Fix	鍵盤を強く強さに関係なく、一定の強さで音を鳴らします。

鍵盤の調を変える（トランスポーズ）

トランスポーズ機能を使うと、鍵盤を半音単位で移調して演奏することができます。

たとえば、ホ長調 (E) の曲をハ長調 (C) の鍵盤の位置で弾く場合は、トランスポーズを「+4」に設定します。

ドミソと弾くと→ミソ#シと鳴る



MIDI 送信チャンネルを設定する

本機の MIDI 送信チャンネルを設定します。

MIDI には、1 ~ 16 までの MIDI チャンネルがあります。MIDI 機器を接続して、それぞれの機器の MIDI チャンネルを合わせることで、音を出力したり、音色を切り替えたりすることができます。なお、本機は 1 ~ 16 のすべてのチャンネルを受信します。

曲 (SMF) 再生時のモードを設定する (SMF 再生モード)

曲を再生しながら、鍵盤演奏をするときの音色設定です。通常は「Auto-Select」でお使いください。
ファイル形式が SMF の曲を再生するときに、内蔵曲と外部データのどちらに最適な設定にするかを選びます。この設定を変更しても、鍵盤で弾いている音の音質に影響はありません。

設定	説明
External	曲を再生しても、鍵盤演奏する音色は変わりません。 市販のミュージックデータなどの外部データを再生するときにお勧めです。 ※ この設定にすると、曲の再生音にかからない効果があります。 そのため、曲の録音時と再生時で音質が異なって聞こえることがあります。
Internal	曲を再生すると、鍵盤演奏する音色は曲に記録されている音色に変わります。 内蔵曲やこのピアノで録音した曲を再生するときにお勧めです。
Auto-Select	再生する曲に合わせて、SMF 再生モードを「Internal」か「External」に自動で切り替えます。

ソフトウェア音源と接続したときの 2 度鳴りを防ぐ（ローカル・コントロール）

MIDI シーケンサーを接続したときには、この項目で、ローカル・オフに設定します。

通常のシーケンサーはスルー機能がオンに設定されているため、鍵盤を弾いた音が 2 重に聞こえたり、途切れたりします。これを防ぐために鍵盤と内部の音源を切り離すことを、「ローカル・オフ」といいます。

Bluetooth / USB オーディオのボリュームを調整する

Bluetooth や USB Computer 端子から送られてくるオーディオ信号の音量を調整します。

インプット・ボリューム	1 ~ 10 (初期値: 7)
-------------	-----------------

Bluetooth 機能の設定をする

設定	説明
On (初期値)、Off	Bluetooth 機能のオン/オフを設定します。

故障かな?と思ったら

現象	原因／対策
【⑥】 (電源) ボタン 以外のすべての LED が点滅する	USB Memory 端子に過大な電流が流れました。 USB メモリーに異常がないか確認したあと、電源を入れ直してください。
ヘッドホンを使っ て消音しても、鍵盤 を弾くとカタカタ 鳴る	このピアノの鍵盤は、アコースティック・ピアノの構造をシミュレート して設計されています。アコースティック・ピアノの場合でも、鍵盤 を押したときに打鍵音が実際に出ています。打鍵音がカタカタ鳴っ ていても故障ではありません。
電源が勝手に切 れる	本機は演奏や操作をやめてから 240 分経過すると、自動的に電源 が切れます (工場出荷時の設定)。 自動で電源を切る必要がない場合は、「オート・オフ」の設定を「Off」 にしてください (P.5)。 USB メモリーにある非常に大きな音量の SMF やオーディオ・ファ イルを再生すると、保護回路がはたらいて電源が切れることがあり ます。 その場合は、音量を小さくしてください。
電源が入らない	AC アダプターが正しく接続されていますか (P.5) ?
ペダルが効かない 、または効きつ ぱなしになる	ペダルが正しく接続されていますか? Pedal 端子にしっかり接続してください (P.5)。
音が出ない／曲を 再生しても音が出 ない	本機の音量が最小になっていませんか? ヘッドホンを接続していませんか? Phones 端子にヘッドホンなどを接続しているときは、スピーカーから 音が出ません (P.4) (P.11)。
鍵盤や曲の音程、 ピッチがずれて いる	トランスポーズの設定をしていませんか (P.12) ? マスター・チューニングの設定は適切ですか (P.12) ? ピアノの音は、高音域はより高く、低音域はより低くする独特の手法 で調律されています (ストレッチ・チューニング)。そのため、ピッチ がずれているように感じることがありますが、アコースティック・ピ アノと同等の本来の聴こえかたです。
鍵盤を弾くと、2 つの音が鳴る	デュアルにしていますか (P.2) ?

現象	原因／対策
高音部で、ある鍵 盤から音が急に 変わる	アコースティック・ピアノでは、高音部の 1.5 オクターブ程度の範囲 はダンパー・ペダルに関係なく音が最後まで延びます。また音色も 違ってきます。 本機は、こうしたアコースティック・ピアノの動作を忠実に再現して います。また、本機では、ダンパー・ペダルの影響を受けない範囲 はトランスポーズの設定によって変化します。
「キーン」という 音がする	ヘッドホンで聴こえる場合： きらびやかで粒立ちがはっきりしている一部のピアノ音色では、高調 波成分が多く含まれているため、金属的な響きが加わって聞こえる ことがあります。これはピアノ本来の特徴を忠実に再現しているため で、故障ではありません。 この響きは、アンビエンス効果を深くするとより耳につきやすくなり ますので、アンビエンス効果を浅くすることで減少する場合があります (P.9)。 ヘッドホンからは聴こえない場合： 別の原因 (本体の共鳴など) が考えられます。お買い上げ店または 当社サポート窓口にお問い合わせください。
低音がおかしい ／ビリビリと共鳴 する	音量を大きくすると、演奏方法によっては音がひずむことがあります。 その場合は、音量を小さくしてください。 ヘッドホンでは聴こえない場合： 大きな音で演奏するとスピーカーや本機付近のものが共鳴すること があります。部屋の蛍光灯やガラス戸などが共鳴することもありま す。特に低音鍵になるほど、音量が大きいほど起こりやすくなります。 共鳴を抑えるには、次のことにご注意ください。 ● 本機を壁などから 30cm 離して設置する。 ● 音量を控える。 ● 共鳴している器具などから遠ざける。 ヘッドホンで聴こえる場合： 別の原因が考えられます。お買い上げ店または当社サポート窓口 にお問い合わせください。

内蔵曲一覧

No.	曲名	作曲者	鍵盤
1	Elevations	* オリジナル	A0
2	Reflection	* オリジナル	A#0
3	Fly day	* marasy	B0
4	舟歌	* ショパン	C1
5	ひばり	* グリンカ、バラキレフ編曲	C#1
6	ワルツ 作品 34-1	* ショパン	D1
7	英雄ポロネーズ	* ショパン	D#1
8	ノクターン 第 20 番	* ショパン	E1
9	ます	* シューベルト、リスト編曲	F1
10	水の反映	* ドビュッシー	F#1
11	だったん人の踊り	ボロディン	G1
12	オンブラ・マイ・フ	ヘンデル	G#1
13	私を泣かせてください	ヘンデル	A1
14	きらきら星	フランス民謡	A#1
15	メリーさんのひつじ	外国曲	B1
16	もりのくまさん	アメリカ民謡	C2
17	山の音楽家	ドイツ民謡	C#2
18	大きな古時計	ヘンリー・ワーク	D2
19	ジングル・ベル	ピアポント	D#2
20	クリスマスおめでとう	クリスマス・キャロル	E2
21	きよしこの夜	フランツ・グルーバー	F2

No.	曲名	作曲者	鍵盤
22	アメイジング・グレイス	讃美歌	F#2
23	ラベンダーズ・ブルー	トラディショナル	G2
24	オーラ・リー	ジョージ・R・プールトン	G#2
25	蛍の光	トラディショナル	A2
26	グリーン・スリーブス	トラディショナル	A#2
27	メープル・リーフ・ラグ	スコット・ジョップリン	B2
28	エンターテイナー	スコット・ジョップリン	C3
29	聖者が街にやってくる	アメリカ民謡	C#3
30	茶色の小瓶	ジョセフ・ウィナー	D3
---	(録音した曲)	---	C4

※ これらの内蔵曲を個人で楽しむ以外に権利者の許諾なく使用することは、法律で禁じられて
います。

※ 音色デモや内蔵曲の演奏データは、USB Computer 端子と Bluetooth (MIDI) か
らは出力されません。

※ SMF 再生モード (P.12) を「Auto-Select」または「Internal」に設定しているときは、
[ソング・ボリューム] で音量が変わらないパートがあります。

※ SMF 再生モードを「External」に設定すると、すべてのパートの音量が変化します。

※ (*) マークの付いている曲は、ピアノ・ソロ曲です。伴奏はついていません。

※ Fly day : marasy 演奏

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

简体中文

安全上のご注意

警告

オート・オフ機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（オート・オフ機能）。自動的に電源が切れないようにするには、オート・オフ機能を解除してください（P.5）。



指定のスタンドを使用する

本機の設置には、ローランドが推奨するスタンド（型番：KSC-70、KS-12、KS-20X、KS-10Z）を使用してください（P.4）。



不安定な場所に設置しない

本機の設置にスタンド（型番：KSC-70、KS-12、KS-20X、KS-10Z）を使用する場合、ぐらつくような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。



スタンドへ設置するときの注意

取扱説明書の指示どおりに設置してください（P.4）。

正しく設置しないと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。



警告

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



注意

指定のスタンドのみ使用する

本機は当社製のスタンド（KSC-70、KS-12、KS-20X、KS-10Z）とのみ、組み合わせて使用できるよう設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。



注意

スタンドを使う前に安全を確認する

取扱説明書に記載の注意事項が守られていても、取り扱いによってはスタンドから本機が落下したりスタンドが転倒したりする可能性があります。使用にあたっては事前に安全を確認した上でお使いください。



移動するときの注意

本機を移動するときには以下のことを確認したあと、必ず 2 人以上で水平に持ち上げて運んでください。このとき、手をはさんだり、足の上に落としたりしないように注意してください。



- ・ 機器本体とスタンドを固定しているネジがゆるんでいないか、確認する。ゆるんでいる場合は、しっかりと固定する。
- ・ 電源コードをはずす。
- ・ 外部機器との接続をはずす。
- ・ 譜面立てをはずす。

使用上のご注意

設置について

- ・ 鍵盤の上にものを置いたままにしないでください。発音しなくなるなど、故障の原因になります。
- ・ 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を变色または変質させることがあります。

鍵盤の取り扱いについて

- ・ ペンなどで書き込みをしたり、印を付けたりしないでください。インクが表面のラインに染み込んで落ちなくなります。
- ・ シールなどを貼ったりしないでください。粘着力の強いものでは、シールがはがれなくなったり、粘着剤によって变色したりすることがあります。
- ・ ひどい汚れを落とすときは、研磨剤が入っていない市販の鍵盤クリーナーを使ってください。はじめは軽く拭くようにします。汚れが落ちないときは、傷がつかないように徐々に力を入れながら拭くようにしてください。

修理について

- ・ 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払ってありますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- ・ 当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 8 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、または当社サポート窓口にご相談ください。

その他の注意について

- ・ 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- ・ 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- ・ 演奏時の打鍵音や振動は床や壁を通じて意外によく伝わります。周囲に迷惑がからないように注意しましょう。
- ・ 譜面立てを使用するときは、譜面立てに強い力を加えないでください。

外部メモリーの取り扱い

- ・ 外部メモリーを使うときは次の点に注意してください。また、外部メモリーに付属の注意事項を守ってお使いください。
- ・ 読み込み中や書き込み中には取りはずさない。
- ・ 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。

電波に関する注意

- ・ 以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
- ・ 本製品を分解／改造する
- ・ 本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがす
- ・ 本製品を購入した国以外で使用する
- ・ 本機の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）や特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、アマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
- ・ 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・ 移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して、万一、本機が原因と思われる有害な電波干渉の事例が発生した場合には、電波の発射を停止した上で、混信回避のための処置等（たとえば、パーティションの設置など）について当社サポート窓口にご相談ください。
- ・ その他、発生した問題についてお困りの場合も、当社サポート窓口にご相談ください。
- ※ 当社サポート窓口への連絡につきましては、取扱説明書などに記載の「お問い合わせの窓口」をご覧ください。
- ・ 認証取得済みの特定無線設備を搭載しています。

知的財産権について

- ・ 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- ・ 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- ・ 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイルデータ、伴奏パターン、フレーズデータ、オーディオループ、画像データなど）の著作権は当社が保有しています。
- ・ 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（ただしデモ曲などの楽曲データは除く）を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布することに関しては、当社の許諾を必要としません。
- ・ 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピュータ・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- ・ 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム [eParts™] が搭載されています。
- ・ Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ローランドはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- ・ 本製品は、T-Engine フォーラム (www.tron.org) の T-License 2.0 に基づく T-Kernel ソースコードを利用しています。
- ・ 本製品には、第三者のオープンソースソフトウェアが含まれています。
Copyright © 2009-2018 Arm Limited. All rights reserved.
Copyright © 2018 STMicroelectronics. All rights reserved.
Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
You may obtain a copy of the License at
<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>
Copyright © 2018 STMicroelectronics. All rights reserved.
This software component is licensed by ST under BSD 3-Clause license, the "License";
You may obtain a copy of the License at
<https://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause>
本製品は Jansson (<http://www.digip.org/jansson/>) ソースコードを使用しています。
Copyright © 2009-2016 Petri Lehtinen <petri@digip.org>
Released under the MIT license
<http://opensource.org/licenses/mit-license.php>
- ・ Roland, SuperNATURAL は、日本およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- ・ 文中記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

主な仕様

ローランド FP-30X デジタル・ピアノ

音源	ピアノ音：スーパーナチュラル・ピアノ音源
鍵盤	PHA-4 スタンダード鍵盤：エスケープメント付き、象牙調（88 鍵）
Bluetooth	Bluetooth 標準規格 Ver 4.2 対応プロファイル：A2DP（オーディオ）、GATT（MIDI over Bluetooth Low Energy） 対応コーデック：SBC（SCMS-T 方式によるコンテンツ保護に対応）
電源	AC アダプター
消費電力	16W（付属 AC アダプター使用時） ※ボリュームを中央にしてピアノ演奏したときの消費電力の目安：4W 電源投入後、音を鳴らしていない状態の消費電力：3W
外形寸法	譜面立てをはずした場合 1,300（幅）× 284（奥行き）× 151（高さ）mm 譜面立てと専用スタンド KSC-70 を付けた場合 1,300（幅）× 344（奥行き）× 931（高さ）mm
質量	14.8kg（譜面立てを含む） 23kg（KSC-70 および KPD-70、譜面立てを含む）
付属品	取扱説明書、「安全上のご注意」チラシ 譜面立て AC アダプター 電源コード（AC アダプター接続用） ペダル・スイッチ（DP-2） 保証書
別売品	専用スタンド：KSC-70 専用ペダル・ボード：KPD-70 キーボード・スタンド：KS-10Z、KS-12、KS-20X ダンパー・ペダル：DP シリーズ キャリング・ケース：CB-88RL、CB-76RL、CB-B88V2、SC-G76W3 ヘッドホン

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

USB メモリーで再生できるフォーマット

FP-30X は以下の形式のデータを再生できます。

- SMF フォーマット 0/1
- オーディオ・ファイル（WAV 形式、44.1kHz、16 ビット・リニア）
- オーディオ・ファイル（MP3 形式、44.1kHz、64kbps ～ 320kbps）

お問い合わせの窓口



ホームページをご覧ください

Roland製品

電子楽器製品（電子ピアノ、電子ドラム、シンセサイザーなど）

https://roland.cm/roland_support



プロAV製品（ビデオ・ミキサー、業務用映像音響機器など）

https://roland.cm/proav_support

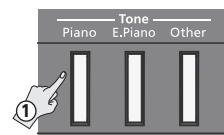


BOSS製品

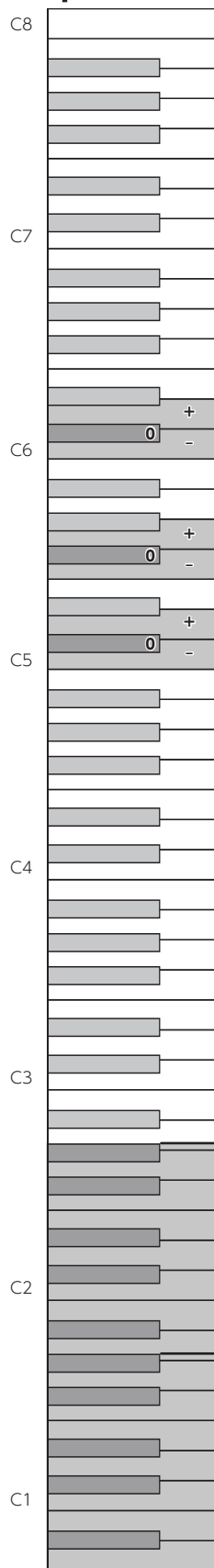
https://roland.cm/boss_support



操作一覧（ボタンと鍵盤の組み合わせ）



+ 押しながら ②

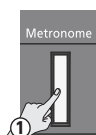


+ 0 - SPLIT/DUAL オクターブ・シフト
→ P.10

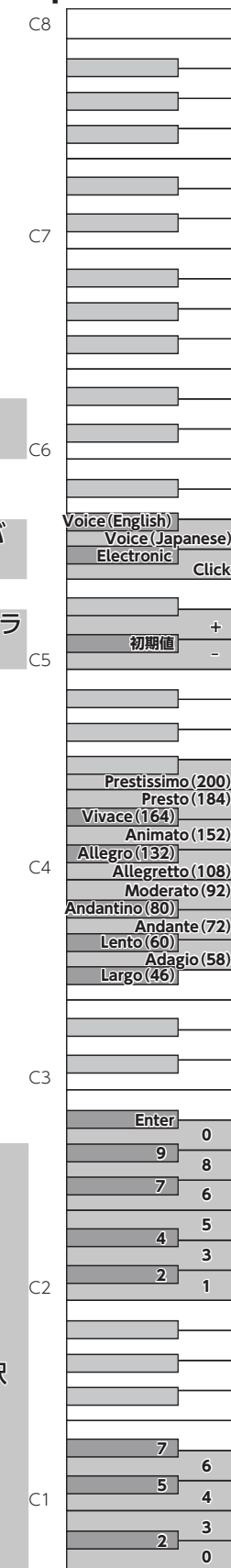
+ 0 - DUAL ミックス・バランス
→ P.2

+ 0 - SPLIT ミックス・バランス
→ P.2

Piano
E. Piano
Other
音色選択
→ P.2



+ 押しながら ②



Voice(English)
Voice(Japanese)
Electronic Click
メトロノームの音色
→ P.9

+ 初期値 -
メトロノームの音量
→ P.9

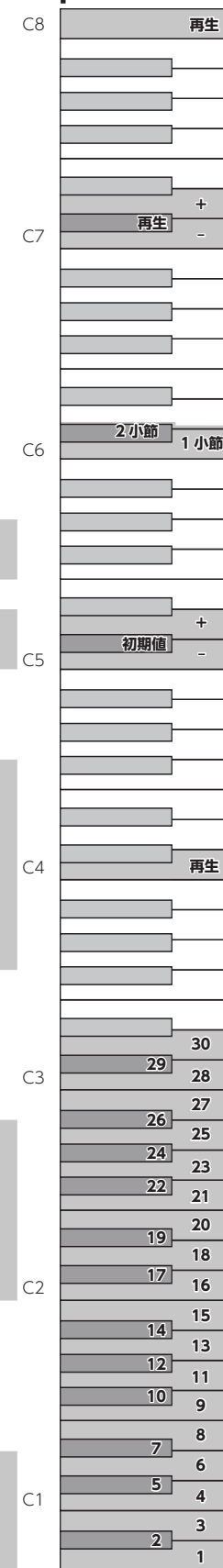
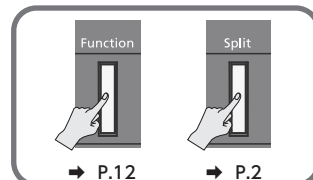
Prestissimo (200)
Presto (184)
Vivace (164)
Animato (152)
Allegro (132)
Allegretto (108)
Moderato (92)
Andantino (80)
Andante (72)
Lento (60)
Adagio (58)
Largo (46)
代表的なテンポ

Enter 0
9 8
7 6
4 5
2 3
1
テンポの数値入力
→ P.3

7 6
5 4
2 3
0
拍子を変える
→ P.3



+ 押しながら ②



再生 ALL SONG PLAY

再生 + - USB メモリーの曲

2小節 1小節 カウントイン小節
→ P.10

+ 初期値 - ソング・ボリューム

再生 録音した曲

30
29 28
26 27
24 25
22 23
21
20
19 18
17 16
15
14 13
12 11
10 9
8
7 6
5 4
3
2 1
内蔵曲を選ぶ
→ P.3

Internal Song Music Book

内蔵曲楽譜集

1 : Elevations
2 : Reflection

FP-90X
FP-60X
FP-30X
Roland Digital Piano

Elevations

Original

Allegro (♩ = ca.140)

mf playful

C C6 G7/C Dm G9

Am C/G F C/G G

rit.

C *a tempo* F/A C/G F6 Dm7

C G C *a tempo*

poco rit. *mp*

The musical score is written for piano in 3/4 time. It consists of four systems of music. The first system starts with a treble clef and a key signature of one flat (Bb). The tempo is marked 'Allegro' with a quarter note equal to approximately 140 beats per minute. The dynamics are 'mf playful'. The chords are C, C6, G7/C, Dm, and G9. The second system continues with Am, C/G, F, C/G, and G. A 'rit.' (ritardando) marking is present. The third system starts with C 'a tempo', followed by F/A, C/G, F6, and Dm7. The fourth system starts with C, G, and C 'a tempo'. It includes a 'poco rit.' (poco ritardando) marking and a 'mp' (mezzo-piano) dynamic. The score is written for piano, with a treble clef and a key signature of one flat (Bb). The bass line is written in a simplified style, often using a single note or a simple chord. The treble line features various melodic patterns, including eighth and sixteenth notes, and rests. The chords are indicated by letters above the staff. The dynamics and tempo markings are placed below the staff.

C Cmaj7 Am

And. *And.*

C/B C Cmaj7

And. *And.* *And.*

Am C/B Poco slower

And. *And.*

Fmaj7 C/G G Fmaj7

mf espressivo

And. *And.* *And.*

Gsus4 G C Più mosso Dm/A Fmaj7

And. *And.*

First system of piano music. The right hand features chords C/E, F6, Am7, and F/A. The left hand has a descending eighth-note line in the first two measures, followed by a half note and a quarter note in the third measure, and a half note and a quarter note in the fourth measure. The piece is marked *And.* (Andante).

Second system of piano music. The right hand features chords A^bmaj7, Fm6, C/G, and G. The left hand has a descending eighth-note line in the first two measures, followed by a half note and a quarter note in the third measure, and a half note and a quarter note in the fourth measure. The piece is marked *f rit.* (forte, ritardando) and *mf a tempo* (mezzo-forte, at tempo).

Third system of piano music. The right hand features chords G and Fmaj7. The left hand has a descending eighth-note line in the first two measures, followed by a half note and a quarter note in the third measure, and a half note and a quarter note in the fourth measure. The piece is marked *rit.* (ritardando).

Fourth system of piano music. The right hand features chords C, Cmaj7, and Am. The left hand has a descending eighth-note line in the first two measures, followed by a half note and a quarter note in the third measure, and a half note and a quarter note in the fourth measure. The piece is marked *Tempo I* and *playful*.

Fm6 *poco rit.* *a tempo* C/G *expressivo* Gsus4

G Fmaj7 C/G G

A^bmaj7 **Più mosso** B^b6

A^bmaj7 B^b6 *poco rit.*

C

Reflection

Original

Moderate (♩ = ca.112)

The musical score for 'Reflection' is presented in four systems, each with a grand staff (treble and bass clefs). The tempo is marked 'Moderate' with a quarter note equal to approximately 112 beats per minute. The key signature is C major, indicated by a 'C' above the first staff. The dynamics are marked 'mf' (mezzo-forte) in the first system. The score includes various chords: C, Am, F, F6, Fmaj7, Dm7, F, G, F/A, and G7/B. The bass line features a steady eighth-note accompaniment pattern, often with a 'ped.' (pedal) marking. The melody in the treble clef consists of eighth and sixteenth notes, often beamed together. The score concludes with a double bar line at the end of the fourth system.

C

mf

Am F F6 Fmaj7 Dm7

C

F G F/A G7/B

First system of piano music. The treble clef staff features a melody with eighth and sixteenth notes, accented in the first measure. The bass clef staff provides a harmonic accompaniment with eighth notes. A *Seo.* (Sordano) marking is present below the first measure of the bass staff. A *Seo.* marking is also present below the fourth measure of the bass staff.

Second system of piano music. The treble clef staff features a melody with eighth and sixteenth notes. The bass clef staff provides a harmonic accompaniment with eighth notes. Chord symbols are written above the treble staff: *Am*, *G/B*, *F#m7^{b5}*, and *F*. A *poco rit.* (poco ritardando) marking is present below the third measure of the bass staff. An *a tempo* marking is present above the fourth measure of the treble staff. A *Seo.* marking is present below the first measure of the bass staff. A *Seo.* marking is also present below the second measure of the bass staff. A *Seo.* marking is also present below the third measure of the bass staff. A *Seo.* marking is also present below the fourth measure of the bass staff.

Third system of piano music. The treble clef staff features a melody with eighth and sixteenth notes. The bass clef staff provides a harmonic accompaniment with eighth notes. Chord symbols are written above the treble staff: *C* and *E^b6*. A *Seo.* marking is present below the first measure of the bass staff. A *Seo.* marking is also present below the second measure of the bass staff.

Fourth system of piano music. The treble clef staff features a melody with eighth and sixteenth notes. The bass clef staff provides a harmonic accompaniment with eighth notes. Chord symbols are written above the treble staff: *C* and *E^b6*. A *poco rit.* (poco ritardando) marking is present below the fourth measure of the treble staff. A *Seo.* marking is present below the first measure of the bass staff. A *Seo.* marking is also present below the second measure of the bass staff.

Fifth system of piano music. The treble clef staff features a melody with eighth and sixteenth notes. The bass clef staff provides a harmonic accompaniment with eighth notes. A *Seo.* marking is present below the first measure of the bass staff. A *Seo.* marking is also present below the second measure of the bass staff.

